



火
の
心

東京深川登門新田屋住む伊藤助之
腹を切つて此命を御蔵山を信心し
三層に女房のむすし明徳年三月廿に
實父の病を見舞ふ野原へ行り留ま日
三目にするもの通り信心をほめてやが
小便のちりかめ込め坐すたへこぬあつたを尋ねて浴場
短刀をのどへさして死んでのろを見つけて家中大騒ぎ
平生信心すりかたなる人の利益書で有上に自念を命をすするもの

日々新聞

第九号

花源記

イイ御利益分有あり九
札の上跡を頼むと書
置かうとてやわら
それて目撃しん山へさる
法のおしふまをうらふ

影福三

新編
天竺
佛
堂

拾遺

